



Weekly Report



ロータリーのこころを地域に広めよう

佐世保北ロータリークラブ 2010～2011年度 RI 会長 / レイ・クリンギンスミス ガバナー/ 高原武彦

会長/宮原明夫 幹事/峯 徳秀 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8F カトレアホール (毎週月曜日)
創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店内 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201
E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本 日】会員数44名 出席 31名 欠 席 3名 出席免除会員出席 8名 ビジター 2名 出 席 率 92.86%
【前々回】会員数45名 出席 31名 メークアップ 2名 出席規定除外 12名 修正出席率 100.00%

《クラブ運営方針》

宮原明夫 会長



今年度のRI会長レイ・クリンギンスミス氏は、「ロータリアン以外の人々にロータリーの目的を説明すること」と「ロータリアンにはロータリーの原則の重要性を再確認してもらうこと」

の2つを目標にして、今年が1910年に初めて国際ロータリーの世界大会が開かれて100年目あたることも踏まえて、今年のRIのテーマを「地域を育み、大陸をつなぐ」としています。

その中で、四大奉仕部門のうち、クラブ奉仕と職業奉仕は我々が人生を謳歌し善き市民となることに役立ち、社会奉仕と職業奉仕は、地域の地域社会をより住みやすく、働きやすい場所にしてくれ、国際奉仕は世界をより良き場所に作る機会を与えてくれると言っています。

そして、私たちは、「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」といったロータリーの中核となる価値観を多くの人たちと分かち合う必要があると思っています。

2740地区の高原武彦ガバナーは、このRIのテーマを踏まえ、その目標を達成するためには、まずは足元からの活性化が必要と考え、地区のテーマを「地域・家族と共に生き生きロータリー」としました。

私たち佐世保北ロータリークラブも1984年の創立以来、「奉仕」と「親睦」を最優先に活動を継続してきましたが、今年度もこの伝統を失うことなく、「佐世保北ロータリクラブらしさ」「佐世保北ロータリクラブの良さ」を継承して行きたいと考えています。

私自身、ロータリークラブに入ってから良かったと思うことの第1は、「多くの人たちと知り合え、親睦を深めながら、自分を高めるための多くのことを学ぶことができ

ること」と考えています。

自分の職業を通して従業員や地域に貢献することは、ロータリーに入らなくても実業家あるいは専門職業人としては当然のことかもしれませんが、ロータリーに入ることによって、多くの異職種の人たちとも知り合え、多くの情報を得、その質を高めることが出来るのではないのでしょうか。

このようなロータリーの目的を多くの人に広めることが、地域の活性化や会員増強につながると考え、今年度のクラブのテーマを「ロータリーのこころを地域に広めよう」としました。

今年度も多くの活動計画が、各委員会から出されています。詳しくは活動計画書をご参照ください。

組織表を考えるに当たって、年齢やロータリー歴に関係なく、すべての会員の方に委員会に所属して頂くようにしました。各委員長は出来るだけ活発に委員会を開催して下さい。例会に出席するだけでなく、委員会に参加することでロータリーへの理解も深まり、親睦も深まるはずだと思います。

委員会活動は例年の事業を継続して行きますが、活動をもっと一般の方にも広報する工夫が出来ればと考えています。お知恵をお貸し下さい。

親睦活動は、佐世保北ロータリークラブらしさを出し、会員の親睦を深めるための基本的な活動ととらえています。予算不足でご負担もおかけするかとは思いますが、ふるってご参加下さい。

職業奉仕活動は、ロータリーの基本だと思います。「最も奉仕する者、最も多く報いられる」といった奉仕活動の実践的な倫理原則に基づき、「他人のことを思いやり、他人のために尽くすこと」を忘れずに、毎日の仕事に励んで行ければと思います。委員会活動の中でも、もう一度職業奉仕についての勉強が出来ればと思います。

社会奉仕は、ロータリアンひとりひとりが「超私の奉仕」を実証する機会と言われます。地域の人々の生活の質を高め、公共に奉仕するために、ロータリアンらしく汗を流しましょう。

国際奉仕は、今年は仁川松島RCと姉妹クラブを締結

- ・佐世保市社会福祉協議会
「社協だより」第80号の送付について

3. 伝達事項

7月11日13：30～より武雄センチュリーホテルにてクラブ奉仕部門研修セミナーが開催されますので宮原会長、湯口委員長、永田地区クラブ奉仕統括委員ご出席よろしくお願いいたします。

《来訪ロータリアン》

- ・佐世保中央RC 田雑豪裕 君、南部 建 君

《委員会報告》

永田武義 親睦活動委員長

7月12日（月）第二例会（短縮）のあとアルバトロスで納涼例会を開催します。新入会員5人、熊井雅人会員、中尾充宏会員、渡会祐二会員、村瀬高広会員、田平会員を歓迎します。8月21日（土）ハウステンボス・アムステルダムで夏の家族会を開催します。パンフレットをセルフボックスに入れてありますのでご覧ください。

緒方信行 国際奉仕委員長

- ①厦門理工学院交流事業の支援金をお願いします。
- ②「毎年一人百ドル運動」に御協力を御願います。
- ③本日第三回委員会を7Fで開催します。

深町 等 社会奉仕委員長

当委員会支援事業であります、第二回オープンシーウォータースイミング大会に、7月3日前夜祭、7月4日開会式に宮原会長と峯幹事と私で出席してまいりました。当日パールシー会場はモヤがかかりあいにくの天気でしたが、北は東北山形県から南は沖縄県まで360人の参加があり、盛大に行われました。

.....

《米山記念奨学会》

普通寄付金にも税制優遇が 適用されるようになりました

（財）ロータリー米山記念奨学会は、文部科学省から「特定公益増進法人」として認定されているため、年間5,000円以上の寄付金については、所得税・法人税の税制優遇を受けることができます。

これまでは特別寄付金（普通寄付金以外の任意寄付）が対象でしたが、当会指定の書式で会員名のデータをご提供いただければ、普通寄付金（クラブを通じて会員数分送金いただく寄付）にも申告用領収証を発行することができますようになりました。

普通寄付金の平均年額は4,476円（2008年度）ですが、金額設定は地区やクラブにお任せしており、クラブによって大きな差があります。これまで「普通寄付は免税のメリットがない」との理由から増額に踏み切れなかったクラブは、この機会にぜひご検討ください。

税制上の優遇措置について

財団法人ロータリー米山記念奨学会は、文部科学大臣

より1978年10月2日付で、所得税法および法人税法に掲げる特定公益増進法人に該当する旨の認可を与えられており、当会への寄付金に対して税制上の優遇措置を受けることができます。

1年間（1月～12月）に5千円以上の特別寄付をしてくださった方には、翌年の1月末頃に、確定申告用領収証と特定公益増進法人の証明書（写）を送付します（ロータリー会員の場合はクラブ宛に送付）。法人寄付の場合は、その都度送付します。

※ 確定申告用領収証の発送時期の指定や、5千円未満のご寄付に対する領収証発行もご依頼いただけます。また、2001年2月23日付で、相続税法上の免税優遇措置に関わる認可（租税特別措置法第70条、施行令40条）を得て、遺言によるご寄付をお受けする体制も整えております。

申請期限

申請の締め切りは、毎年10月末日です。同年1月～10月末に納入された普通寄付金が対象となります。

申請方法

下記「申請用フォーム」（Excel）に入力のうえ、メールに添付してご提出ください。FAX等による用紙提出は受け付けることができませんので、ご了承ください。

送信先アドレス：kifu@rymf.org

申請用フォームは

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/contribution/exemption.html#futsukifu>

からダウンロードできます。

.....

《RI会長メッセージ》

親愛なる同僚ロータリアンの皆さん

なんと驚くべき世界でしょう！ 技術の進歩はものすごい速さで進み、私たちの事業や専門職務に絶え間ない変化を起こしています。しかし、全世界に住む人々の約3分の1は、その暮らしにほとんど変化がないまま、最低水準の生活を続けています。これは極端な格差であり、心配の種の一つです。

卓越した伝統と明るい未来

ロータリーは、卓越した伝統と明るい未来をもち合わせています。私の国際ロータリー（RI）会長としての第一の仕事は、各ロータリークラブの活力と実現性の強化、そして、社会が変化している中で、クラブを成功に導くことです。これは非常に重要な仕事です。なぜならば、社会の根底に存在する問題に焦点を当て、その問題を軽減して、それによって世の中を良い場所にするのは各クラブだからです。

「Wind of change（変化の風）」という言葉は、私が1960年代初頭にロータリーの奨学生として南アフリカにいたころの、新しくて意義深い言い回しです。私のホストシティーであるケープタウンで最初に広まったこの言葉を、私たちの組織の変化に関して影響を与える社会の変化を考えると、ロータリーに適用できるということは思いがけないことです。この慣用句は今、「Winds of change（変化の風）」として当時にも増して知られるようになりました。

最良の日はまだ先にある

私たちは今、国際ロータリーで改革の文化を享受して

